

## T-29番 吉川佳里 要約

(平成26年10月現在)

### 1 被害者

平成12年1月生。接種時中学1年生(12、13歳)、現在14歳。神奈川県在住。

### 2 ワクチン接種前の健康状態等

入通院歴、服用歴、アレルギーのいずれもなし。通常に通学し、明るく、運動好き。姉妹でダンスを習い、発表会に向けて練習をしていた。

### 3 接種

サーバリックス3回(平成24年9月8日、同年10月10日、平成25年3月8日)

### 4 経過概要

- i) 平成24年、自治体や学校から接種を勧める案内が届き、無料であることや周囲も既に接種していたことから、9月以降接種を3回継続。
- ii) 平成24年12月、2回目に接種から2ヶ月後に突然の過呼吸、3回目の接種から4ヶ月後の平成25年7月にも激しい過呼吸で救急搬送。
- iii) 平成25年9月、ある日突然、足の脱力、歩行障害、手の震え、不随意運動、視野狭窄、聴力過敏が起こり、以後ほとんど歩けなくなる。
- iv) 平成26年1月、検査入院の退院後、記憶障害が始まる。友人の顔も、クラスの間所も、漢字、ひらがな、数字も分からなくなる。
- v) 各種検査を受け、右脳の血流が低下しているとの診断を受ける。身体障害者手帳の2級を取得する。

### 5 これまでに発症した主な症状

全身の関節痛、頭痛、腹痛、疲労感、だるさ、不随意運動、意識を失う、過呼吸、運動麻痺、感覚麻痺(味覚、嗅覚)、脱力、生理不順、不正出血、視野狭窄、歩行障害、めまい、耳鳴り、記憶障害、眠れない、突然眠る、体重減少、食欲不振、嘔吐、便秘、不安感、口中や頬など顔の痺れ、喋りにくい、視界がぼやけ物が見えにくい

### 6 受診医療機関の数・診療科

12病院(小児科、神経内科、眼科)

### 7 現在の生活状況

基本的に前記5の症状が続いている。夜就寝するが、15~30分寝て起きることの繰り返し。朝起きれず、10~11時間に朝食をとるが、食欲不振で量は以前の半分以下。通学出来ず、一日自宅に居る。夜は食べるが毎日嘔吐してしまう。最近では体重減少に伴い体力も落ちて吐く力がなく、嘔吐できず気持ち悪さがずっと続く。

### 8 救済制度の申請 申請していない

## T-29番 吉川佳里 母（神奈川県）

（平成26年10月現在）

### 1 接種前の生活

私は、現在14歳になる娘、吉川佳里（よしかわかいり）の母親です。娘は平成12年生まれで、現在中学3年生になります。娘は、子宮頸がんワクチンであるサーバリックスを接種する以前、特に大きな病気をしたことはなく、入通院歴、服用歴、アレルギーはありません。また、娘は、たまに風邪などをひいて欠席する以外は、基本的には毎日、元気に学校に通っていました。娘は小さい頃から運動が好きでしたので、妹と一緒にダンスを習っており、発表会に向けて一生懸命練習していました。

### 2 接種のきっかけと接種直後の症状

娘は、中学1年生の時、初めて子宮頸がんワクチンであるサーバリックスを接種しました。娘の周りの友達も皆既にワクチンを打っていたようで、娘が友達から「まだ打っていないの？」と聞かれると言っていたことや、母親である私も、娘の友達のお母さん達から「もう打たせたわよ。」等と聞いていたので、普通、打つものなのだと認識していました。また、娘の学校から2回程、市からは3回程、子宮頸がんワクチンの接種を勧めるお知らせが届いたこと、そこに期限内ならば無料で接種できると書かれていたことも、接種を決めるきっかけとなりました。

娘は、平成24年9月8日、同24年10月10日、同25年3月8日の計3回、サーバリックスを接種しました。接種を受けるにあたり、医師からこれがどのようなワクチンなのか、どのような副作用が出る可能性があるのか等、口頭での説明は一切ありませんでした。1回目の接種の時、サーバリックスについての説明文書を渡されましたが、ただ渡されただけで、その記載内容についての説明はありませんでした。なお、接種を受けることについての同意書には、3回の接種の毎回サインをしていました。

接種時の痛みについて、娘は、普通に注射針をさされたとき以上に痛かったと言います。ただ、娘自身、学校のお友達から「すごく痛いよ。」と聞いていたので、私も娘も、痛みについてそれほど気に止めることはしませんでした。注射した腕の痛みが一週間程続いた他、注射部位の腫れ、しこりも同じく一週間ほど続きました。

### 3 接種後の症状経過

#### (1) 最初に起こった身体の異変

接種時の痛み、腫れ、しこり以外で、初めて娘に起きた身体の異変は、2回目の接種から約2ヶ月後の、友人宅での過呼吸でした。平成24年12月5日、娘が友人宅に遊びに行っていた際、夕方、大きめの地震が起こったのですが、その直後、娘が突然過呼吸になったのです。友人のお母さんが娘の口元にビニール袋をあてて下さり、そのときは数分ほどで症状は落ちついたようでしたので、帰宅した後も病院に行くことはしませんでした。

#### (2) 今までにない過呼吸の出現

平成25年7月、自宅にいたところ、娘が突然今までにない過呼吸になり、救急車で東海大学大磯病院に搬送されました。救急担当の医師からも、「過呼吸症状である。」と言われ、病院で症状が落ち着くのを待って帰宅させました。

### (3) 足の脱力と歩行障害、手の震え、視野狭窄、聴力過敏

平成25年9月12日、娘が学校での体育祭の予行練習中に突然倒れたとの連絡が入り、急いで学校まで迎えに行きました。娘が言うには、突然足の力が入らなくなって立ってられなくなり、手も震えて、視野も急に狭くなったとのことでした。娘は保健室に運ばれていましたが、その時は先生の肩を借りればなんとか歩行可能だったようです。ただ、一向に手の震えが止まらないため、帰宅させそのまま近所のとうじょう小児科に連れて行きました。医師から熱中症の可能性があるとされ点滴を打ちましたが、全く手の震えが治まらないため、医師から「平塚共済病院に行った方がよい。」と言われ、そのまま同院に連れて行きました。

平塚共済病院では、血液検査、CT検査等を受けましたが、医師からは、異常なしと言われました。医師から「このまま帰宅してよい。」と言われましたが、娘の手の震えが治まらず、歩き方も膝が安定せず不安定で心配でしたので、入院させて欲しいと伝え、小児科に入院することになりました。

次の日、娘は心電図検査を受けました。寝たままの状態での心電図検査は行えましたが、階段を上りながら等運動しながらの心電図検査は娘が歩けないため実施できず、次の日も試みましたが、やはり歩行自体ができないため断念をしました。また、握力を測ろうとしましたが、手で握力計自体を握れず、結果は「握力ゼロ」でした。MRI検査も行おうとしましたが、娘の聴力が敏感になっており、機械音に耐えられず、実施することができませんでした。

入院から一週間後、担当医から何の説明もなかったため、こちらから医師にお伺いをしたところ、「精神的なものだ。」と言われました。娘の手の震えは入院から2週間ほどして治まりつつありましたが、十分な検査も行えず、ただ「精神的なもの」と結論付けられたことに納得がいきませんでした。私から「子宮頸がんワクチンの副反応ではないか。」と尋ねましたが、医師は「それは絶対はない。」と言い、精神科への転院を勧めました。転院と言われても、他院の思春期精神科は3ヶ月待ちと聞いており、どうしてよいか途方に暮れてしまいました。ただ、このまま平塚共済病院に入院させるべきではないと判断し、同年10月2日、娘を自主退院させました。翌日、精神病院である愛光病院を受診しましたが、精神的なものだと言われました。

平塚共済病院への入院時点で、娘は足の脱力から10歩程しか歩けなくなっていました。同院を退院した時点では車椅子で、以後、室内以外は完全に車椅子を使うことでしか移動ができなくなりました。また、手だけでなく上半身や足も自分の意思と無関係に動いてしまう不随意運動が出るようになり、最大で13時間続くこともありました。不随意運動が出た後、娘は体力を奪われぐったりと疲れてしまい、筋肉痛と共に、身体にビリビリした感じが残ると言います。

### (4) 病院に助けを求める日々

平成25年10月4日、娘は北里大学病院の小児科を受診しました。またしても、「精神的なもの」と言われ、子宮頸がんワクチンの影響ではないかという問いには、あっさり「違います。」と言われました。

同年10月6日の夜8時頃、娘にまた過呼吸症状が起き、平塚共済病院で処方された薬を飲ませましたが治まらず、救急車を呼びました。救急隊員からは、「これは過呼吸ではない。」と言われ、以前入院した平塚共済病院に搬送されそうになりましたが、娘が同院への不審からどうしても嫌だと言い、東海大学付属病院に搬送されました。しか

し、救急担当の医師から、またしても「精神的なもの。」と言われ、そのまま帰宅させられました。

同年10月9日、娘が休みがちになっていた学校にどうしても行きたいと言い連れて行きましたが、すぐに過呼吸症状が起きてしまい、午前中保健室で休ませて、一緒に帰宅しました。

同年10月15日、平塚共済病院の紹介状を持ち東海大学病院に行きましたが、受付で「違う病院に行ってください。」と言われ、診察を拒否されました。そこで、地元の医院に連絡し受診を希望しましたが、「車椅子の方は受け入れられません。」と言われ、受診をすることができませんでした。

同年10月末、娘が風邪をひいた為、とうじょう小児科を受診した際、医師に娘の過呼吸や歩行障害等の症状について、再度、「ワクチンの影響ではないか。」と尋ねましたが、「ありえない。平塚共済病院に任せておけば歩けるようになる。現代病のようなものだ。」と言われました。

この頃、娘は通学を試みては学校で体調を崩し私が迎えに行くということの繰り返し、まともに授業を受けられるような状態ではありませんでした。

(5) 子宮頸がんワクチン被害者連絡会への登録と病院の紹介

平成25年11月8日、私は、友人より子宮頸がんワクチン被害者連絡会があると聞き、登録しました。そして、同年12月6日、被害者の会からの紹介で、横浜市立大学附属病院の小児科を受診しました。診察を希望していた医師が出張中で不在だったため、別の医師に診てもらったところ、子宮頸がんワクチンの副作用の疑いがあると言われました。

同年12月10日、横浜市大学附属病院の小児科を再度受診し、診療を希望していた医師に診察をして頂いたところ、結果は、「若年性繊維筋痛症」ではないかという診断でした。

(6) 検査入院

平成25年12月27日、娘は信州大学医学部附属病院を受診し、血液検査、心電図検査を受けました。そして、年明けに検査入院をすることが決まりました。平成26年1月7日、娘は同病院に入院し、心電図検査、胸部レントゲン、針筋電図、尿検査、血液検査を受けました。娘は入院中、激しい股関節の痛みに襲われ、痛み止めを服用しましたが軽減することなく、痛みから眠ることもできず、泣いて過ごす日々が続きました。

(7) 記憶障害の発生

平成26年1月17日に信州大学医学部附属病院から退院し、娘は徐々に学校に行きました。そうしたところ、娘は、自分のクラスの場合、同級生の名前、顔が思い出せないと言います。字も思い出すことができないと言い、漢字だけでなくひらがなですらまともに書けない状態になりました。これまで娘には様々な症状が出ていましたが、ついに記憶障害が始まったのかと、愕然としました。以後、娘はまともに通学することができなくなりましたが、学校に行っても、教材を使ってひらがなの字を練習したりする程度で、授業を受けたりましてや試験を受けることなど到底できませんでした。

(8) 副作用との診断と、再度の検査入院

平成26年3月26日、霞ヶ関アーバンクリニックを受診し、受診後、慈恵医大病院を紹介され、同院で検査入院することになりました。

慈恵医大病院では、髄液採取、脳波検査、握力検査、MRI、胸部レントゲン、心電図検査を受けました。その結果、右脳の血流が低下していると診断されました。

#### 4 現在の状況

娘は、平成26年4月30日に学校に登校し意識を失って大学病院に運ばれて以降、通学していません。生活は、夜寝て起きることの繰り返しです。ただ、夜も15分から30分ほど寝ては目が覚めることの繰り返しなので、まともに睡眠をとることができません。その結果、朝は起きられず、日中も突然眠り出すことがあります。

娘の症状は、これまで述べたことに加えて、微熱、下肢冷感、耳鳴り、口中や頬など顔の痺れ、通常の腹痛ではないグリグリ押し潰されるような痛み、生理不順、不正性器出血などがあります。現在でも、不随意運動、全身の痛み（関節痛）、意識喪失、疲労感、運動麻痺、歩行障害、脱力、視野狭窄、喋りにくい、記憶障害、吐き気、嘔吐の症状が続いています。なお、娘は現在、身体障害者2級の認定を受けています。

娘は、平成26年3月から7月の間に7キロも体重が落ちました。理由は、食欲不振と、食べ物の臭いだけで吐き気が起こり、実際食べると吐くことの繰り返しだからです。ただ、最近では筋力も弱って吐く力もないようで、気持ち悪さを抱えながら、「どうやって吐けばいいの。」と聞いてくるほどです。

記憶障害も進行していて、最近ではひらがなでも自分の名前しか書くことができません。1から10の数字を数えることもできません。病院で見た「エレベーター」の文字の意味も分かりません。プリクラを見てもお友達の顔を思い出すことができません。これが、14歳になる娘の現状です。

#### 5 心情、要望等

娘の体調の変化は信じがたいものであり、現在、県外の病院に車を使って通院している状況です。当然、診察費、交通費、ホテル代等の出費があります。日常でも、私が娘の側を離れることができない結果、スーパーに買い物に行けず近所のコンビニで野菜を買うこともあるなど、様々な所に経済面での影響が出ています。

娘は、このワクチンはなくなって欲しいと言います、他にこのワクチンで苦しむ人を出したくないと言います。母である私も同じ気持ちです。国は、このワクチン接種を無料にして皆に接種を勧奨しましたが、結局検診をしなければ子宮頸がんワクチンは予防できないと言います。そうであれば、ワクチンを有料にして検診を無料にすべきです。効果の高くないワクチンを接種した結果、娘のような身体になる人が一人でも出るとすれば、少なくとも現状その可能性が排除できないとすれば、このワクチンは今すぐ中止すべきです。